

## 飛騨古川(2012年5月25日)

右城 猛

岐阜大学の社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座の講師を春と秋にさせていただいている。今年は5月24日(木)の午後に私の授業があり、夜は受講生11名と村田芳信先生、倉内文孝先生、熊田さんで懇親会が企画されていた。

25日は恵那峡を観光する予定であったが、受講生の皆様のお勧めは飛騨古川であったので観光地を変更することにした。



名鉄岐阜駅の近くの岐阜キャッスルインに宿泊する。このホテルは施設が立派な割には料金がとても安いので、最近はずっと利用している。



家内は飛騨には何度か旅行で来ているが、岐阜は今回が初めて。後ろはJR岐阜駅。



JR岐阜駅8時5分発のワイドビューひだ1号に乗る。



「ワイドビュー」の名称に偽りならず、眺望に優れた明るい客室。快適。



ひだ1号の終点高山駅に10時到着。飛騨古川行きの列車の乗り換えに20分の時間があつたので高山駅の外に出て散策する。



高山駅 10 時 20 分発の高山本線飛騨古川行き  
の列車に乗る。



10 時 35 分に飛騨古川駅に到着した。



飛騨古川の天候は生憎の雨。高山駅の前  
の土産物屋で買った傘が役に立った。



まずは古川町の ME 生が一押し  
の「飛騨古川まつり会館」に入る。

まつり会館の目玉はハイビジョン 3D。日本の奇祭「飛騨古川祭」を見ることができる。運良く 11 時からの上映に間に合った。是非見てと言われるだけの値打ちがある。



3D の後はコンピューター制御によるからくり人形の実演があった。



能を舞う人形は極めて精巧に造られている。



祭屋台に載せて演技する実際の人形は、屋台に乗った男たちが沢山の紐を引いて操る。ここでは、それを実際に体験できる。



人形を操る紐が後に沢山出ているが、この人形は単純な作り。3Dで観た「清龍台のからくり人形」の精緻さとは比較にならない。



「清龍台のからくり人形」。福祿寿が謡曲「鶴亀」に合わせて樋の先端に進んで止まってから、唐子が梯子を運んできて福祿寿の背中に掛け、それを登っていく。謡が最高潮に達すると、福祿寿の左手の亀の背が割れ、中から鶴が飛び出す。信じられないほど精巧にできている。



屋台の本体。これから飾り付けがされる。



「起こし太鼓」。飛騨祭りは毎年4月19日、20日に行われる。19日の夜中に祭りの始まりを知らせるため、太鼓を叩いて町内を起こして回ったことが始まり。



まつり会館内の様子。会館を出る際、係の女性が遠路高知から来てくれたのと言って将棋の駒に「飛騨古川招福手形」と書いたまつり会館オリジナルの土産物をくれた。有りがたい。



「飛騨古川まつり会館」の横に「起こし太鼓の展示場」があった。入り口に、「願いを込めて起こし太鼓の試し打ち 祈禱料 100円」と書かれた立て札が立っていた。



バチで思い切り「起こし太鼓」を叩いてみた。気持ちがいい。ストレス解消には最高。



館内では、匠の業績と足跡、匠の道具、仕口などを見ることができる。



「飛騨の匠文化館」も見学する。木造建築の歴史を作った飛騨の匠の技と術を知ることができる。



白壁の土蔵街の間を東西に流れている瀬戸川。大きな錦鯉がたくさん泳いでいた。



飛騨の大工が建てた家には、釘やボルトなどの金具は一切使われていない。すべての木口に、組み手や継手を用いている。体験コーナーでは、組み手や継手を外したり組み立てたりを体験できる。あまりにも精巧にできているので外したり組み立てたりすることはなかなか難しい。



鯉の餌になる「ふ」を一袋 100 円で売っていた。瀬戸川にはたくさんの鯉がいるが、流速が速くて「ふ」が流されるので池のように一箇所に多くの鯉を集めることはできない。これだけ流速が速ければ川が汚れる心配はないだろう。



古川に住んでいる ME 生が推薦してくれた「西洋膳処まえだ」。昼食に飛騨牛のステーキを食べることにする。



ウイークデーには、旅行先でも iPad で常にメールをチェックすることになっている。



「まえだ」は老夫婦が経営している昔ながらの小さな店。チェーン店とは違い、心がこもった手作り料理で、とても美味しい。飛騨牛は肉が柔らかくて甘い。東京に居る娘の誕生祝いに飛騨牛を肉屋から送ることにする。



軒下の肘木には「雲」と呼ばれる紋様が彫られている。各大工が固有の「雲」を持っているので、「雲」を見れば誰が建てた家か分かる。



一之町中組の屋台「鳳凰台」が保管されている屋台蔵。



屋台「麒麟台」が保管されている屋台蔵



鳳凰台。HP「飛騨の歴史再発見!」から引用  
<http://hidasaihakken.hida-ch.com/e427577.html>



麒麟台。HP「飛騨の歴史再発見!」から引用。  
<http://hidasaihakken.hida-ch.com/e438960.html>



白真弓の看板が掛かった蒲酒造場。



蓬萊の看板がある渡辺酒造店。軒下に吊されている丸い物体は杉林。古来より、造り酒屋の看板として、杉の葉を束ねて軒下に吊るす風習があった。これが酒林。後に球状にして吊すようになったので 杉玉とも呼ばれている。酒林が緑色の真新しいものに替わると、新酒が出来たという合図。秋には青々した杉玉が軒下で揺れることになるようである。



ガイドブックにも載っているこの店でコーヒーを飲んで休憩する。とてもまろやかな味で美味しかった。



壺之町珈琲店の前にある「本光寺」の塀に、落石防護柵として使用されるストーンガードが設置されていた。なぜこのような柵が使用されているのかとても不思議に感じた。

飛騨古川は、観光で売り出そうとしているだけに町並みがとても綺麗。掃除が行き届いていた。町を盛り立てようと人々の熱い思いが伝わってきた。どの店に入っても私達に親切で、人の温もりを感じることができた。



飛騨古川駅に掛かっていた表示板。

飛騨古川駅を 14 時 19 分発のワイドビューひだ 14 号で名古屋駅まで行き、17 時 10 分発のひかり 477 号で京都に行く。京都着は 17 時 47 分であった。



京都に来たのは久しぶりであった。京都駅は昔の面影がなく、近代的で大きく立派な JR 京都駅ビルに変わっていた。ネットで調べると、設計は建築家 原広司・アトリエ・ファイ建築研究所。私のような土木技術者には、全く考えも及ばない斬新なデザインである。世界的な建築家の発想はすごいと改めて感心させられた。

ダイワロイネットホテル京都八条口にチェックインしてから、ジェイアール京都伊勢丹 11 階の「ゆばと京旬菜松山閣」で京都タワーの夜景を眺めながら、懐石料理を堪能する。

さすがは京料理の店松山閣(しょうざんかく)である。ゆば桶や鮎の塩焼きの味は素晴らしかった。

料理と一緒に飲んだ玉乃光の純米大吟醸も美味しかった。説明書きの通りフルーティな吟醸香がした。

大満足であった。

(2012 年 5 月 27 日)